4 わたしたちの川と水

わたしたちと川

市内に５つの大きな川（１級河川）が流れ、越谷は昔から「水郷こしがや」と言われてきました。

鉄道や道路が発達する前は、川を利用した船が大事な輸送方法でした。

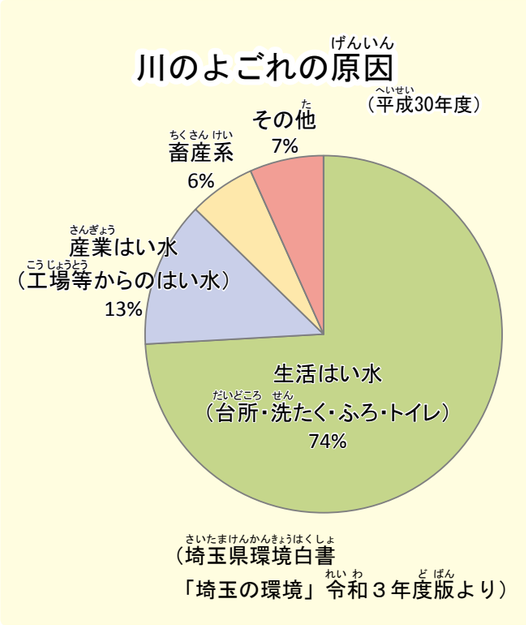
また、川から水田に用水を引き、稲作をしていました。豊かな水は多くの実りをつけました。

しかし、一方で大雨により、川の水があふれ、こう水になることがありました。

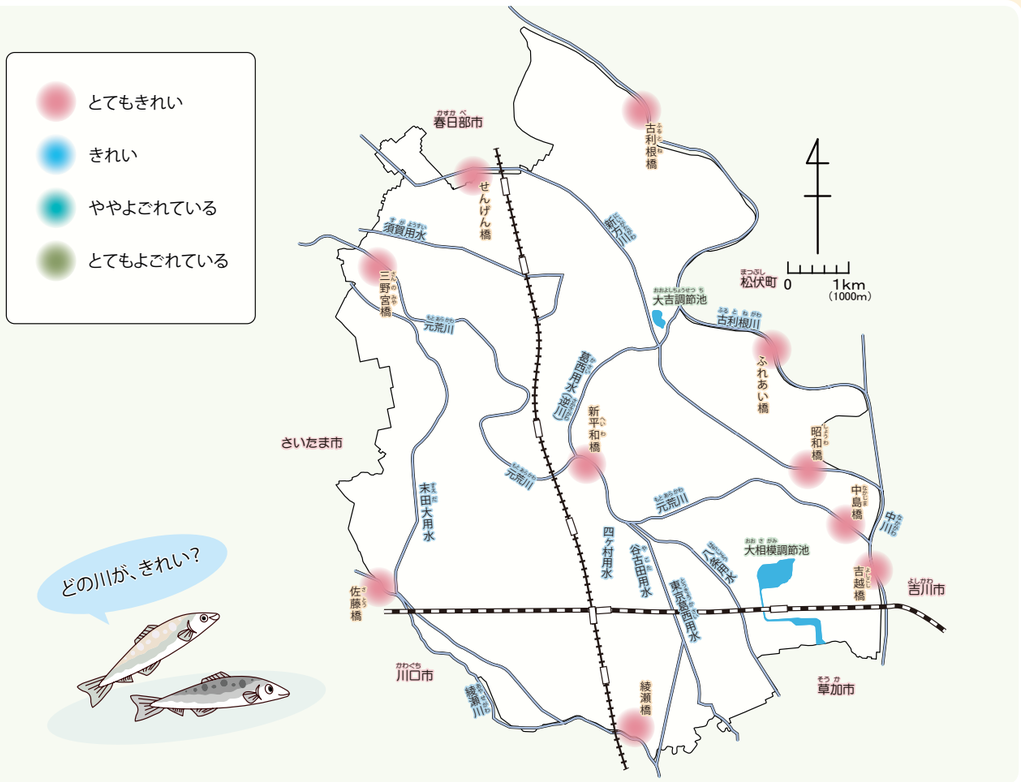
川の水質の変化

越谷市では川を守るために、毎日川の水質を調べています。以前は悪臭を放っていた川もありましたが、少ずつきれいな川になってきました。

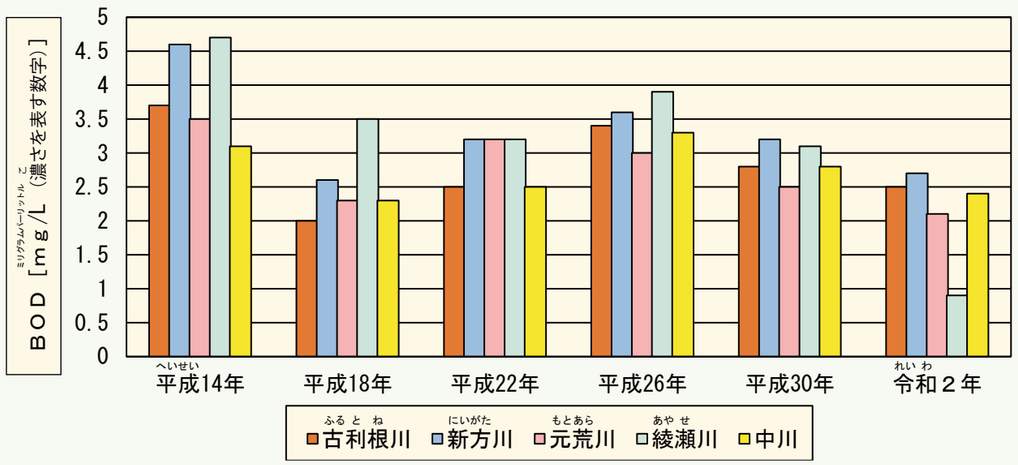
わたしたちは川の水を利用して生活しています。これらからも川と付き合っていくために、わたしたちができることを考える必要があります。



越谷市の川のきれいさについて（令和２年度）



越谷市の主な川のＢＯＤ（川の汚れ）の変化



※数値が低いほど川がきれいで、数値が高いほど川が汚れています。

ＢＯＤ　10ｍｇ/Ｌ以上で悪臭を放ちます。　３ｍｇ/Ｌ以上で川の水をきれいにするのが難しいです。
　　５ｍｇ/Ｌ未満でコイやフナがすめる。　３ｍｇ/Ｌ未満でアユがすめる。

（令和３年度越谷市環境教育白書を参考に作成）

川辺の生き物

毎年、越谷で行っている水辺の観察会では、様々な生き物が見られます。カルガモ、アオサギ、カワセミなど多くの鳥類やイタチやヘビなどもいます。水の中にはハゼやコイ、テナガエビ、タニシ、カワトンボの仲間などが生息しています。

しかし、はんしょく力が強かったり、他の種を食べたりするために、元々越谷市にいなかった外来の動植物（特に特定外来生物）が問題になっています。

シラコバト

カワセミ

マガモ

サギとカルガモ

フナ（コイ科）

スズキ（スズキ科）

特定外来生物

アレチウリ

オオクチバス

地いきの憩いの場

川沿いや池では、多くの人がジョギングやサイクリング、釣り、カヌー、ヨットなどのレジャーを楽しんでいます。また、河原では花見をしたり、数々のイベントが開かれたり、人びとの憩いの場となったりしています。

元荒川の桜堤

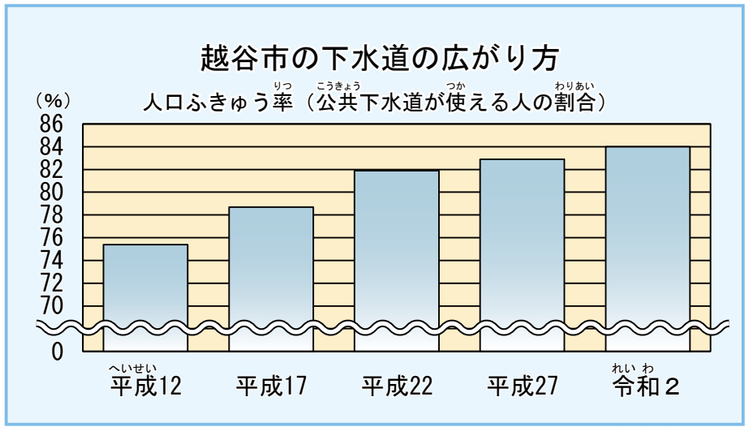
大相模調節池でのカヌー体験

てしごと市

川を守る

越谷市では、川を守るために、次のようなことを進めています。

①定期的に川の汚れ具合を調べています。
②川をよごさないように、各家庭に広報紙などでよびかけています。
③工場の立ち入り検査をして、よごれた水を流さないように注意しています。
④他の市や町と協力して公共下水道をつくり、よごれた水をきれいにして川に流しています。



（下水道経営課より）

マンホールのふた

また、地いきの人も河原の環境を守るために様々な活動を行っています。埼玉県生態系保護協会越谷支部では、年に数回、葛西用水などで元々越谷に生育しているキタミソウなどを守るために、外来種のオオオナモミの除草やせいそう活動などを行っています。

河原の環境を守るための活動

埼玉県生態系保護協会越谷支部の人の話

当たり前にあったのが、当たり前でなくなりました。私が子どもの時にはたくさんの生き物がいて、川の魚も食べていました。しかし、一時期、農薬の空中散布が行われたことによって、トンボやアメンボなどの生き物が見られなくなりました。今は以前よりも環境に配慮した農薬を使うようになり、生き物が戻ってきました。またクワガタやトンボなどが見られるとうれしくなります。

人間しか生きられない環境はおかしいです。生き物は多様にくらしているので、たくさんの人たちに自然と関わってほしいです。

水害から守る

越谷市は平らで低い土地のため、水がたまりやすい地形です。また、川がゆるやかで水が流れにくい特ちょうがあります。そのため、昔から越谷市は水害になやまされてきました。市では、国や県、周辺自治体と連けいし、対策に取り組んでいます。

大雨によるひ害

①２つの調節池

調節池はより安全なまちづくりのために、川に流れる水の量を調節する大きな池です。

キャンベルタウン野鳥の森のとなりにある大吉調節池は、新方川の水の量を調節しています。また、中心にはうき島があり、たくさんの鳥や虫の生活の場となっています。この島は周りが水で囲まれていて、人が入れないようになっているため、生き物が自然のまま暮らすことができます。

レイクタウンにある大相模調節池は、元荒川の水害から守るためにつくられました。自然再生ゾーンでは、昔から越谷にいる生き物が生き続ける環境を守っています。

大吉調節池（通常時）

大吉調節池（雨天後）

大相模調節池のうき島

②学校ちょりゅう

市内の小中学校 45 校中 42 校が、学校の外に流れ出す雨水の量を一定にし、ふった雨を一時的にためています。広いグラウンドを利用すると、浅い水深でも多くの雨水をためることができ、水害の心配をへらしてくれます。広い学校では、3300 t（25 mプール約 6 個分）もの水をためることができます。

雨がふる前の校庭

雨がふった後の校庭

③ポンプ場

通常、小さい川の水は大きい川に流れます。しかし、大雨がふると大きい川から小さい川へと逆流してしまうことがあります。逆流すると小さい川はあふれ、こう水につながります。水害から守るために、大雨のとき、市内にある 33 か所のポンプ場では小さい川の水を大きい川へ流しています。

市内の雨水ポンプ場

その施設

④放水路

放水路は、大雨の時に川があふれないように、別の大きな川などに水を放流する人工の水路です。東京外郭環状道路沿いに綾瀬川放水路、春日部市の地下 50 mに首都圏外郭放水路があります。

首都圏外郭放水路
（提供：国土交通省江戸川河川事務所）